

【全体概要】

本県では小ギクの契約的取引に取組み、水稻を主体とする主穀作経営体において切花品目の経営部門への導入が進んでいる。近年、旧盆や彼岸の物日に需要が増大する花束加工に適したサイズ・品質の切り花の安定的な入荷や新たな切花品目を望む実需者ニーズも高まっている。このため実需者から花束加工向けニーズの高いシンテッポウユリ・ケイトウ及び新たに原種系チューリップ切花の優良品種の選定と栽培技術の確立を図る。

新品種・新技術等の概要

『契約的取引に対応した花束加工向け切花と新たな原種系チューリップ切花の生産技術との確立』

○シンテッポウユリ

- ・花束加工に適した安定的な輪数確保技術と減蕾による輪数調整技術

○ケイトウ

- ・花束加工に適したサイズのケイトウ花径の切花の安定生産技術と優良品種の選定

○原種系チューリップ切花

- ・原種系チューリップの切花生産向けの球根冷蔵技術及び栽培技術
- ・実需ニーズに応じた原種系チューリップの優良品種の選定



シンテッポウユリの実証ほ

主な取組内容

【品種・技術の特性把握】

- ・シンテッポウユリ：花束加工に適した多輪栽培法と多輪から3輪への減輪技術の実証
- ・ケイトウ：花束加工に適した花径サイズを確保するための1粒まきピンチ栽培と多粒まき栽培、直は・移植栽培の実証と優良品種の選定
- ・原種系チューリップの切花生産技術の実証と優良品種の選定

【検討会】

- ・花束加工用に適する品種の安定生産技術についての課題整理と対応方策の検討
- ・実需者との意見交換や品質評価

【先進地視察】

- ・シンテッポウユリ・ケイトウの県外先進地調査

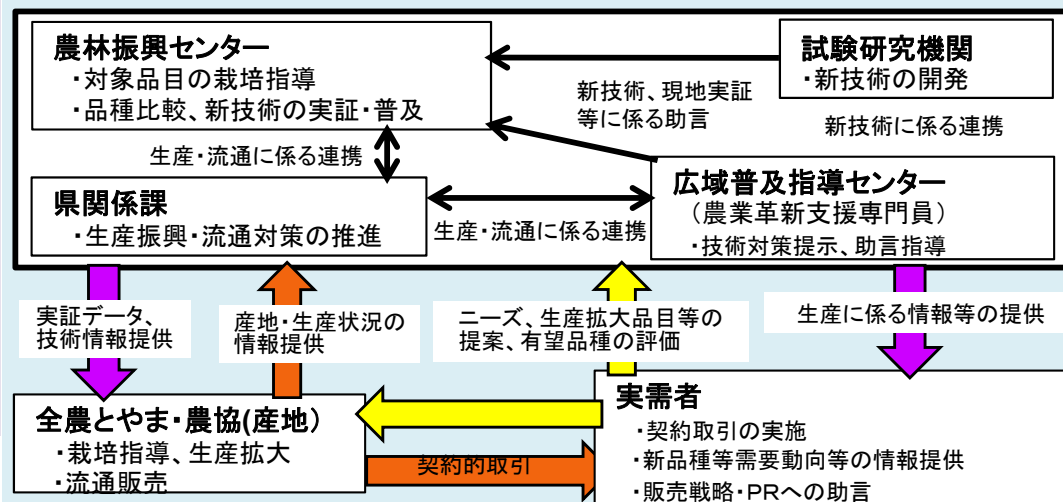
【コンソーシアム候補の形成活動】

- ・実需評価会・研修会等におけるコンソーシアム候補形成検討



実証ほの現地検討会

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

- 優良品種の選定と栽培等技術の確立により出荷量等の増加につながった。
- シンテッポウユリでは、出荷量 H28:9千本 → H30:23千本
- ケイトウでは、出荷量 H28:94千本 → H30:107千本
- 原種系チューリップの切花栽培では、栽培球数 H29:95千球 → H31:170千球